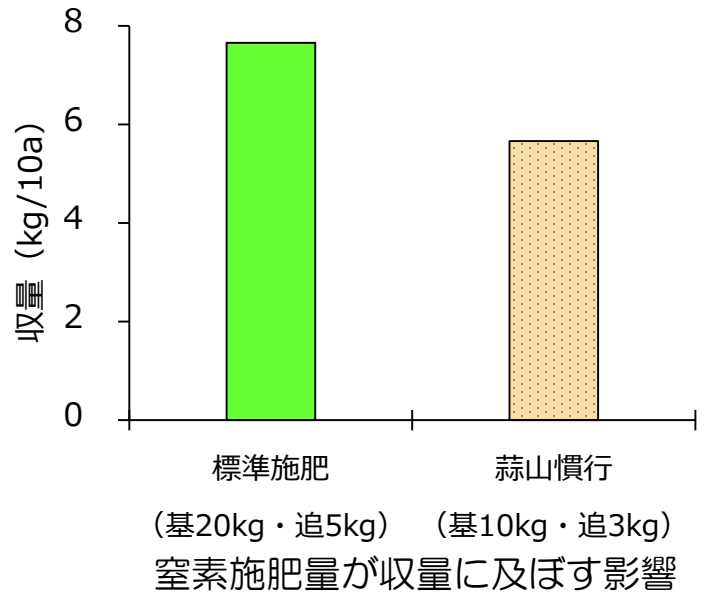
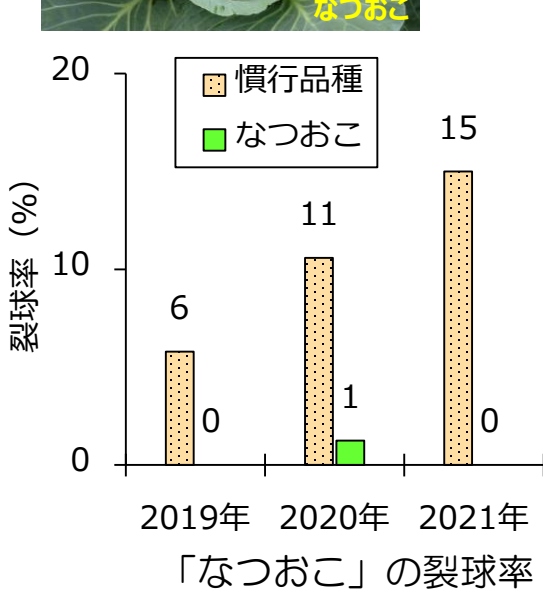


夏期の蒜山高原に適した加工・業務用キャベツ品種「なつおこ」と施肥量



開発のねらい

現在、需要が伸びているコンビニや外食用途等で用いる加工・業務用キャベツは、一般家庭向けよりも大玉で揃いが良いことが求められます。大玉で揃いの良いキャベツで多収を得る条件のうち、ここでは品種と窒素施肥量を明らかにしました。

新技術の概要

- 「なつおこ」は、大玉で揃いが良く、10a当たり7t以上の収量が期待できるとともに、裂球しにくく（写真、左図）、内部障害も少ない品種です。
- 10a当たり基肥及び追肥窒素量をそれぞれ20kg及び5kg程度にすることで収量（右図）、所得が増加します。

活用場面

本技術は、真庭市蒜山地域を中心とした準高冷地に活用できます。単価の高い夏期の生産が安定するため、農家所得の向上が期待できます。